

# 食品提供の輪広がれ

## 困窮者支援・大分市のフードバンク

食事に困っている人に無償で食品を提供するフードバンクが、大分市大在中央にできた。社会貢献活動をしている一般社団法人「大分こころのケアセンター」(三好修代表理事、5人)が設置運営。企業や個人から食品を募り、子ども食堂や必要とする団体・施設、災害被災地などに贈る。県内ではまだ活動団体が少ないため、まず存在や仕組みを知ってもらうと19日に初めてのイベントを開く。

名称はフードバンク東九 因で離職した人の社会参加州。7月に開設し、事務局を支援する同センターの活動は三好さんが院長を務める動の一環で、食品の有効活用精神科クリニックと同じ用途に取り組みことにしたという。センターのスタッフのほか、賛同者も業務に加わっている。

19日のイベントは九州調剤薬局大在駅前店駐車場で午前8時半から数時間。食料品を支える人がストレスの寄付を受け付け、受け取った品を使った料理を振る舞う。経済状況が苦しくなるケースを多く見てきた。一方、食べることは生きること

まだ食べられる食品が廃棄と、三好さん。「誰もが持っている現状を「もったいない」と感じてきた。経済的に苦しくなる可能性がある。おなかをすかせた子どもたちを放置すること

## 19日に初イベント



フードバンクのイベントへの来場を呼び掛ける「大分こころのケアセンター」の三好修代表理事(後列左端)と賛同者ら。大分市

農林水産省の活動実態把握調査(2017年1月時点)によると、全国でフードバンク活動をしているのは77団体。うち県内は県社会福祉協議会が運営する「フードバンクおおいた」の1団体だった。

「も許されない」と話し、協力の輪が広がることを期待している。

問い合わせはフードバンク東九州(☎097・592・7302)。(池田美香)